



### ◎大津市内道路擴張反對陳情

滋賀縣大津市内府縣道、大津停車場紺屋ヶ關港線改修工事につき、沿道住民から反對の陳情書を内務大臣に提出した。其の内容は知事の計畫する道路幅員八間を五間幅にされたきことで、其の理由とする所は本道路に連絡する區間は既に五間幅として決定され、近く着工の筈であるから本道路も亦五間幅にすることは、市の體裁からも亦市民の希望としても適當であると言ふのであつて、近頃珍らしい陳情である。ことの起りを探查してみると、客年の通常滋賀縣會で、大正十五、十六兩年度繼續事業として總工費十六萬三千三百五十四圓を以て、現在の道路を八間幅に擴張

し、大津電車軌道株式會社に工費三分ノ一を寄附せしめ、電車軌道を敷設せしむる計畫の下に繁雜な交通を緩和せむとする知事の發意に對し、縣會に於ては何故かそれに反對し電車敷設は、時期尙早なりとの理由で、原案を修正し道路幅員を五間とし、工費を十一萬千八百八十六圓に削減したのである。併しながら府縣道改修と同時に軌道會社に於て所要幅員の擴張工事を施行し、道路を併用し軌道を敷設するのは、何等支障なく寧ろ遊覽都市として、遂年發展の途にある大津市の現狀に鑑み、最も時宜に適した事業であるのに沿道住民から前記主旨の陳情書を提出するやうなことは吾人の與せざる所である、陳情者の言ふ所は電車の敷設に依つて、都民の生活問題に脅威を感ずるとか、都市發展策として五間幅の擴張で足りるとか、といふことは何等理由のないことで、要するに閑人の杞憂から出た寢言に非ざれば唯かの暴言ではあるまいか。何れにしても公平な反對とは思はれないのみならず、大津市將來の爲に探るべき意見ではない、此の様のことを言つてゐる間に大津市は社

會の落伍者と爲るのである。

### ◎地方幹事高田景君の榮轉

本會地方幹事神奈川縣土木課長であつた高田景君は這般復興局技師に任ぜられて、同局横濱出張所に補せられた。

國家の爲誠に欣快に堪えない。

氏は大正六年五月京都府技師から神奈川縣土木課長となり、爾來約十年、その間深遠の學理と、多年の經驗とを基礎とし、圓熟した人格と相俟つて斯界稀に見るの手腕家として縣民の夙に敬服してゐたところであつた。

明治四十二年京大土木工學科を出て間もない腕白技師として京都府に勤むるや、當時技術上、實際上非常に危險視せられた鐵筋の構橋を架橋すべく設計を立て、當時の府尹大森鐘一氏に進言したが、當時此種工事を實施したものが尠い、「コンナ籠ノ鳥ノ様ナモノデ人が通レルノカ」といふ奇問、否な寧ろ當時では當然の質問を受けたといふ程、新しい味を發揮したものであつた、その橋は今尙由良川に

架せられてゐる、吾人は當時に於て學校出たばかりの技師が此架橋を實現したその勇氣を愛するのである。

更に大正九年四月道路法施行と同時に管内の道路改良計畫を樹立し京濱大國道の改良に努め、或は箱根の峻險の改良に手を染めて函嶺八里の雲助共を一吃せしめ、或は横須賀街道の峻功に努むる等その絶大の業績に至つては今更喋々するの要もない程夫れ程世間周知の事實である。過ぐる關東大震災に直面しては、一家全滅し妻子離散の難に遇ひ、しかも老父が家屋倒壞の爲に受けたる顛死の重傷を看護するの暇なく、東奔西走して復舊計畫を樹て應急措置に遺憾なかつたことは、吾人の敬服する所である。

震災直後に於ける道路計畫に付ても奇効を奏した逸話がある、餘焰猶止まぬ九月十三日、横濱を始め藤澤小田原等各小都市の焼失した區域に於ける道路をどうするかと言ふ大問題に遭遇した、君思ふやう今の時家屋の焼失を機として道路幅員を擴張しなければ、何年待つても擴張することが出来ない、併しながら今地方民がその生活に苦しむでる

るとき夫れを強要するのもドーかと思案したのであつたが、遂に意を決し燒失區域の國道は九間以上の幅員、府縣道は四間以上の幅員を存して家屋を建設せしめむと言ふ命令を下した日を経るに従つて異論が出た。「用地買収代はドーして呉れるか」と言ふ苦情であつて、此苦情があつてから高田君が擴張を專決したことが、安河内知事の耳に入つて、知事から御叱りを受けるどころか、之に對し國庫が補助しなければ君は處決せよとまで言渡された、夫れからと言ふものは政府の助力を求むべく何回内務省に足を運むたが判らぬ、遂に當時の土木局長であつた、熱血兒長岡隆一郎氏を動かして遂に補助下附の豫算を要求して貰ふまでに漕ぎつけ、一號國道今日の如き状況を見るに至つたのは君の賜である、君の首五百五十萬圓と言はるゝ所以である、

本會會務の爲にも随分働いて貰つた、同縣下に於ける會務の進展を引き受けた君は、一時に千數百名の會員を募集して本會幹部を驚かしたこともある、某氏が某長官に謝し

て曰く、君知事としての効蹟の最も大なるものは、高田土木課長を神奈川縣につれて來た事に在ると、縣民の君に謝するもの多大である、以て聊か慰むるに足らむ。復興局に入つても亦横濱地方の事業を完成するにあるので、市民が君に期待してゐるもの多大である、大に手腕を振つて國家の爲に盡して貰ひたい。

### ◎京阪國道擴築速行に關する陳情

京都市、大阪市、神戸市參事會員寺村助右衛門氏外二十七名から京阪國道擴築の陳情書を内務大臣に提出した。其の理由は由來京阪神三市の交通聯絡は其の百般事業の發達上、最も密接の關係があつて、水陸兩種の交通機關を設備し、之が必要に應じて來たのであるが、駸々たる文化の進展は、克く三市をして舊來の交通設備に甘んずる能はざる情勢に立たしむるやうになつた、加之國策遂行の見地からしても此交通設備を等閑に付することが出來ない、政府風

に此情勢を看取し遂に阪神國道の擴築を斷行し、今や全く

其の工を竣り、阪神兩市の聯絡茲に其の面目を一新することゝ爲つた、而も京阪間の聯絡如何と願れば所謂京街道なるものがあるが、其の施設の不備なる現今の交通機關として轉た有名無實の嘆なきを得ない、此に於て京阪神間國道聯絡の現状は、宛も半身不隨の畸形を現出し、三市の福祉に因て不測の禍害を蒙り延いて國策の遂行を阻碍するの虞がある頗くは此情勢を明察し速に京阪兩市間國道の擴築を執行し、當面の急に應ずるの高案を立てられ度いと言ふのである、大津市のやうな反對陳情と違つて、三市が道路交通に眼醒めてゐることを證するのであるが、緊縮政策を探る内閣が此の陳情を容るゝの勇氣があるか疑はし、何とかして陳情を容れたいものである。

### 交通知識普及の歌

左側通ふるは我身の爲めよ 怪我すりや御互共難儀  
狭い道でも我から避けて 左側通ふれば怪我はない  
道を行く時は曲り角は靜に 怪我して馬鹿だと笑はるな  
止めておくれよ道路で遊戯 一ツは身の爲め人の爲め  
雨は天から涙は眼から 怪我は我身の油斷から  
無暗に走るな自轉車乗る人 人に怪我させや罰金では濟まぬ  
早い自動車無暗に飛ばすな あたり近所に子供が居ます  
子供遊ぶなら道路はお止め 車に引かれては一生の片輪  
道端に物を置く人 交通道德の缺けた人  
人力ハイ〜 自轉車チン〜  
自動車ブ〜 急ぐ車は先にやれ  
行く先き急ぐ車には 道を譲るのが當然よ  
かよはき子供老人は 道を譲つてさけてやれ  
道は獨りのものぢやない 猥りに道端ふさげたり  
互に勝手は止めにして 他人の迷惑思ひやり  
交通安全第一に 路上の危険を防ぎましよう